

2010年国際CIO学会秋季全国大会

第1部 10:10~12:10 【研究発表（分科会AおよびB）】

分科会A	12階A会場	座長 小尾敏夫（早稲田大学教授、国際CIO学会副会長）
------	--------	-----------------------------

①10:10~10:40 本田正美（東京大学）

「政治の電子化における行政CIOの役割」

アブストラクト：

2000年のIT戦略本部設置以来、日本では行政の電子化が政策課題として認識され、各種の施策が実施されてきた。行政の電子化に政治の電子化なども含めて、それらは電子政府政策・電子自治体政策と総称される。電子政府政策は、日本に限らず、世界各国の政府で主要な政策の一つとして位置付けられ、様々な取り組みがなされているが、行政の電子化の側面では数々の施策が展開されているものの、政治の電子化の側面では、有効な施策が展開されていると言い難い。

そこで、本研究では、政治の電子化に着目する。とりわけ、多くの国民にとって最も身近な地方政治に着目し、さらに、その中でも政治への参加の側面について、その電子化の可能性について検討する。そして、電子政府・電子自治体政策の推進においては、組織全体の情報を統括する最高責任者であるCIOの役割の重要性が指摘してきされていることから、政治の電子化においてCIOが果たすべき役割について、本研究では検討する。

キーワード：電子政府、電子自治体、政治の電子化、CIO

②10:40~11:10 Tommi Tapanainen (University of Turku, Finland) 他2名

「Towards a partnership in CIO-business relationship – the role of expectations」

Abstract

One important factor in successful alignment of Information Technology (IT) is a well-functioning relationship between the Chief Information Officer (CIO) and business leaders. Prior research focuses on the relationship between the CIO and the Chief Executive Officer (CEO), in which expectations are mainly placed on the CIO. However, a partnership is required where the CIO and business leaders participate equally in decision-making processes. This research investigated the perceptions of CIOs and business leaders in six Finnish companies

regarding the requirements and hindrances for the CIO-business partnership, and interpreted them using Brinkerhoff's (2002) partnership model.

A major problem in CIO-business partnership is that the parties may hold unrealistic expectations of each other's performance, i.e. CIOs expect business leaders to have wide IT knowledge, and business leaders expect the same from the CIO's business ability. When expectations go unfulfilled, conditions for the partnership can suffer. While lack of ability is widely recognized as a hindrance, unrealistic expectations has hitherto received little attention. We propose that CIOs and business executives should work toward a common understanding of each other's performance capability and set realistic expectations in the partnership. Future research should concentrate on identifying how expectations and roles are connected in CIO-business partnerships.

③11:10~11:40 坂田淳一（東京工業大学）

「中小企業における情報システムの戦略的活用を促進するための CIO の役割に係る分析研究」

アブストラクト：

現在、既に中小企業においても、情報システムを事業実施に利活用することが一般化している。しかし、その目的は、未だ、事業コストの低減や人件費の削減と回答する企業が多い。従来からの産業構造やビジネス慣習の変化に対応し、売上げや利益を高めるために、中小企業においても、情報システムによって得られた経営情報を有用する必要が高まっており、企業内では、その責任を、CIO を兼ねる経営者や役員が負っている。本研究では、これらに関する書面調査結果の分析により、中小企業の CIO が情報システムを具体的にどう有用しているか、また、できていない場合の障壁の明示化について、定量的な分析によって明らかにしている。

キーワード： 情報システム、企業 CIO、情報システムの戦略的活用

④11:40~12:10 Kamila Kolpashnikova（東京大学）

「Digital Inequality in East and South-East Asia: Comparison of the Internet Usage Among Youth」

Abstract

This paper is based on the data of the AsiaBarometer 2006 and 2007, two surveys conducted by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. The research

focuses on the digital inequality within the age groups of respondents, specifically two: 20-29 and 30-39 cohorts. The paper creates two variables for further cluster analysis among the fourteen countries of the database. One of the variables is concerned with the representation of the Internet penetration rates, weighted according to the frequency of use. The other variable concentrates on capturing the differences within the two cohorts under question.

分科会 B	12 階 B 会場	座長 加藤陽一（日本アイ・ピー・エム(株) パートナー、国際 CIO 学会常任理事）
-------	-----------	---

①10:10～10:40 井手達夫（早稲田大学）他 1 名
「イノベーションの評価指標について」

アブストラクト：

現代を語るキーワードにオープンイノベーションがある。以前は主として組織の枠の中で流れていた有形・無形資産を、その枠を超えた大きな流れに乗せることで、新たな価値が創造され、効率化が図られつつある。

これまで多くの研究者がイノベーションについて、それを起こすための要因、その度合いを測る指標について研究を重ねてきた。しかしながらその多くは、研究者の文脈に沿った、ある意味で恣意的な資料の選択に基づくものであり、研究者の知見の及ぶ範囲で妥当性は検されても、知の全体像の中でのそれが検されることはなかったといっても過言ではない。

本研究はそのイノベーションに関する知の全体像を、その膨大な先行研究から掘り起こすことを企図するものである。そのために多くの先行論文をテキストマイニングにより分析を行い、研究動向を明らかにし、生成されるクラスターから評価指標を作成、要因分析を行うと共に、地域、ドメイン等の差異がどのように影響しているかを比較検討したいと考えている。

キーワード

イノベーション、テキストマイニング、指標

②10:40～11:10 赤司一郎（双日株式会社）
「経営情報システム（MIS）構築に向けて本質を探る」

アブストラクト：

経営情報システム（MIS）が語られはじめて約半世紀になる。当時は夢であったオンライン、リアルタイムシステム、データベース、検索ツール、ブロードバンド、これらの技術環境の進化は経営情報システムの構築に一役買ったのだろうか？

MIS、DSS、SIS、経営コックピット、ダッシュボード、呼称は変われど、MIS はいつも古くて新しいテーマ。

ERP、EUC、オンデマンド、ペーパーレス、これらのキーワードは経営情報システムの構築においてどういう意味を持つのだろうか？

経営者も情報化推進者もコンピューター技術も、すっかり世代交代した現在、妙案はあるのか、今一度、これまでの反省を分析し、成功に向けての本質を探る。

キーワード： 経営情報、MIS、全体最適と個別最適、ERP、BPR

③11:10～11:40 神岡太郎（一橋大学）

「ポジションに基づく CIO の分類とその比較モデル」

アブストラクト：

今日 CIO という名称は多くの企業に受け入れられ、市民権を得るようになった。様々な企業が CIO を採用するに至り、CIO も多様化しつつある。これまでも政府系組織の CIO と民間企業の CIO で大きく性格が異なることが本学会でも指摘されてきたが、性格の異なる CIO を同一の枠組みで議論することはしばしば誤解を生じるため、CIO を分類するモデルが望まれる。それに対して CIO の調査機関やアカデミック研究の領域では、この CIO の行動を評価あるいは分析するための土台として、成熟モデルが用いられることが一般的であった。CIO の有用性を認知させようという時代には意義があったが、今日の実態は一つの成熟度の基準に基づいて CIO を分類するのは難しくなっている。

本研究は、CIO という名称が与えられていながら、実際には異なるポジションにあることに注目し、そのポジションに基づいて日本企業の CIO の行動や特徴について比較する。ポジションは2つの変数、つまりポジションのレベル(役員レベルかディレクターレベルか)、IT 領域からの距離(ビジネス領域あるいはマネジメント領域にどれだけ近いポジショニングにあるのか等)によって分類する。行動的要因としては CIO が何を重視して仕事をしているのか、それらに対する態度を比較する。そして分類された CIO のタイプの性質に結び付いている特徴は何か(例えば所属企業の業種、CIO の個人特性)を比較する。本研究は、日本の大手企業の従事し、自社の CIO を評価できる立場にある 309 人の回答者を対象に行ったアンケート調査データに基づいている。